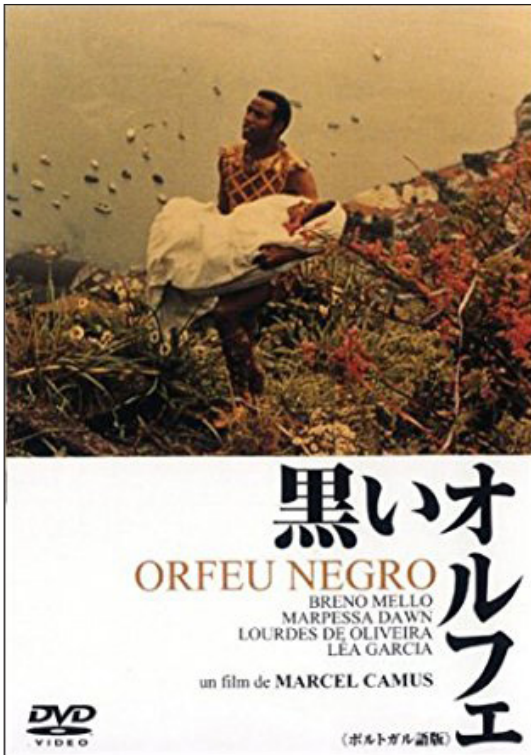


2018.2.15  
vol.64

# シネマ・ド・リぶらの コラム・ド・シネマ

映画  
を  
読む

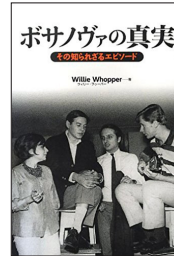
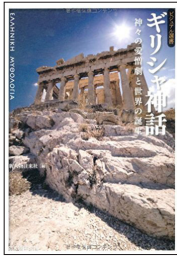
## 本日の上映作品『黒いオルフェ』



カーニバル見物にやってきた娘とギターがうまい市電の運転手は、踊り明かすうちに恋が燃え上がり、骸骨の仮面の男に追われた彼女は……。ギリシャ神話「オルフェ」の物語が、オール黒人キャストで現代によみがえり、世界にボサノバの存在を知らしめた。熱狂のカーニバルを舞台にした悲しいラブ・ストーリーは、アフロ・ブラジル文化の描写も興味深く、ボサノバが生まれた頃のリオの風景に彩られたジョビンの名曲と共に、今も新鮮な感動を与えてくれる時代を超えた名作。

監督：マルセル・カミュ  
原作：ノエル・カレフ  
音楽：アントニオ・カルロス・ジョビン  
出演：ブレノ・メロ、マルペッサ・ドーン  
ルールデス・デ・オリヴェイラ  
レア・ガルシア、ファウスト・ゲルゾーニ  
製作：1959年 フランス カラー 107分

|   |                    |         |        |
|---|--------------------|---------|--------|
| 『ギリシャ神話入門』                              | 長尾 剛／著             | かんき出版   | 164.31 |
| 『ギリシャ神話』 神々の愛憎劇と世界の誕生                   | 新人物往来社／編           | 新人物往来社  | 164.31 |
| 『使える!ギリシャ神話』                            | 齋藤 孝／著             | PHP 研究所 | 164.31 |
| 『みんなが知りたいギリシア神話』<br>これ一冊でわかる神々の愛と冒険     | 学研ムック -            | 学研      | 164.31 |
| 『ギリシア神話』 愛と憎しみの壮絶な物語!                   | 吉田 敦彦／著            | PHP 研究所 | 164.31 |
| 『ボサ・ノヴァ 50』                             |                    | BMG     | 2008   |
| 『デザフィナード ザ・ワールド・オブ・<br>アントニオ・カルロス・ジョビン』 | アントニオ・カルロス・ジョビン／作曲 | Verve   | 1997   |
| 『リオ・リヴィジテッド』                            | アントニオ・カルロス・ジョビン／演奏 | Verve   | 2006   |
| 『ボサノヴァの真実』 その知られざるエピソード                 | Willie Whopper／著   | 彩流社     | 764.7  |
| 『ブラジルを知るための56章』                         | アンジェロ・302.62 イシ／著  | 明石書店    | 302.62 |
| 『踊る!ブラジル』 私たちの知らなかった本当の姿                | 田中 克佳／写真・文         | 小学館     | 302.62 |



## コラム『黒いオルフェ』

マルセル・カミュ渾身の前衛アート「陽はまた昇る」 K.M.

今回の上映作品は、フランスのマルセル・カミュ監督の前衛的な代表作『黒いオルフェ（1959年製作）』です。本作は、1959年のアカデミー賞とゴールデングローブの外国語映画賞をW受賞し、カンヌ国際映画祭でもパルム・ドールを獲得しました。日本でも翌1960年に公開されると大ヒットを記録し、サンバ・ボサノヴァのブームのきっかけとなりました。

原作はギリシャ神話のオルフェ伝説をもとに、ブラジルの詩人ヴィニシウス・ヂ・モライスが、舞台をカーニバルに熱狂する現代のリオデジャネイロに置き換えて創作した戯曲『オルフェウ・ダ・コンセイサウン』です。この戯曲は、1956年に初演されましたが、この時、音楽担当にアントニオ・カルロス・ジョビンとルイス・ボンファ、舞台美術にオスカー・ニーマイヤー等が起用され、ブラジルの新しい才能が結集という噂が広がり、マルセル・カミュ監督がヴィニシウス・ヂ・モライスに映画化を打診、フランス・ブラジル共同制作が実現しました。

この作品、傑作であるには違いありませんが、ギリシア神話のオルフェウスの物語をリオのカーニバルの物語に置き換えるという発想がシュールすぎて、深読みの好きな私も、作品の後半は、物語を忠実に追うのを諦めました。頭で理解するのではなく、全身で感じるとするという観方がよい作品だと思います。

冒頭から、あっついサンバのリズムが脳天を直撃！ 続くオープニングクレジットのバックに、この作品の主題歌の一つ、カルロス・ジョビン作曲のボサノ

ヴァ『フェリシダージ（悲しみよ、さようなら）』が流れ、画面はカーニバルの本番前日のリオの町の情景に移っていきます。出演者はみんな一般公募というだけに、若干たどたどしさは感じるものの、常にリズムを刻んでいるかのようなナチュラルな「動き」から目が離せません。それに、ラテンな女たちの目も眩むような姿態と、色鮮やかな衣装、ハイテンションなアクション！ 正直、主人公であるオルフェとユリディスよりも、オルフェを情熱的に愛するミラや、ユリディスの従姉のあつけらかんと逞しいセラフィナなど、脇役の女たちの弾けぶりに目を奪われてしまいます。

そして、何といても、熱狂的に歌い踊りまくるリオのカーニバルのシーン。「この日のために生きている」とまで言われるわけだ・・・、とナットクします。もう街全体、老若男女がとにかく踊る踊る・・・。ただ歩くだけでも、サンバのリズムを腰で刻んでいます。

頭の芯が熱くなるようなサンバのリズムと、この映画で初めて日本で紹介されたというボサノヴァのスイートなメロディこそ、この映画の主役かもしれません。オルフェがギターを爪弾きながら、先述の『フェリシダージ（悲しみよ、さようなら）』、ルイス・ボンファ作曲のもう一つの主題歌『カーニバルの朝（黒いオルフェ）』を歌うシーン（画面右端に歌詞の字幕が出ます）は見逃せない見所です。

カーニバルの熱狂的な興奮と喧騒の中、オルフェとユリディスの愛はあっという間に燃え上がり、隣人の助けもあり、二人は首尾よくカーニバルの本番をペア

で踊ります。ここが二人の幸福最高頂で、死神がユリディスに投げた一本の紙テープを合図に、死の運命の歯車が回り始め、物語は最悪の悲劇を迎えます。しかし、最後の最後にまた幸福の陽がのぼります。

オルフェが先代の同名の持ち主から引き継いだギターを、さらに引き継いだ次世代の子供たちが新しい曲を奏で、陽がのぼり朝がくる。そこで、また子供たちは踊る。懸命に、踊る。それはいのちの躍動であり、訪れる影に立ち向かう希望が生まれるのです。子供が奏でるのは、ルイス・ボンファ作曲の代表作として知られている名曲『オルフェのサンバ』です。ラストは子供たちが爽やかにキメてくれて、後味スッキリ！

## リオのカーニバル

「2018年02月10日共同通信」によると、南米最大の真夏の祭典、ブラジル・リオデジャネイロのカーニバルが9日に開幕しました。14日までの期間中、街はサンバのリズムと踊りの熱気に包まれます。国内外から約150万人の観光客が訪れ、経済効果は約35億レアル（約1152億円）に上ると見込まれるそうです。サマータイム中のリオと日本の時差は、日本が11時間進んでいます。映画を見ながら、いま、まさにカーニバルシーズンであることを意識してご鑑賞ください。

## 1/18 『バルカン超特急』の感想

- ・とても面白かった。見ているうちに、どんどん興味深くなり、最後は快感。協力した人が死んでいったのが残念。楽しく観れました。
- ・待ってました、サスペンス！ 待ってました、ヒッチコック！ 3度の上映は大変でしょうが、とても嬉しいです！
- ・ハラハラドキドキの楽しい映画でした。80年も前の作品とは思えないほど。さすがヒッチコックの作品！
- ・ミステリーの国イギリスらしい展開で、80年前の映画とは思えない面白さでした。
- ・古い映画とは思えないテンポのよさ。ただヒッチコックがどこにいたかわからなかった。
- ・一度観たかった映画なので、観られて感激です。とても楽しいお話でした。
- ・何だかいつも眠ったりするのに、今日は楽しんで寝るどころではなくよかったよ。
- ・とてもよかったです。最後までハラハラドキドキしました。フロイ、バンザイ！
- ・主演のマーガレット・ロックウッドの好演技が光った（感動）。僕が生まれてすぐの時の作品だ。
- ・自分なりに、何でだろうといろいろ考えてみました。歌の意味は？ 老婦人が謎？
- ・よくわかりません。撃ち合いになるのは、国の方針でやっているのでは？
- ・白黒の画面、心が落ち着きました。ハラハラとした楽しい時間、ありがとうございました。

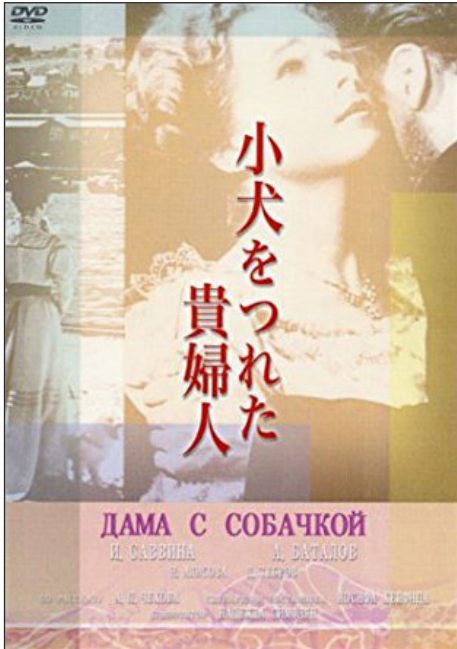
- ・『バルカン超特急』を観て、オリエント急行の旅を思い出しました。列車旅はいいですね！
- ・北川れい子の本をこちらで借りて、見たい映画がいっぱいありました。そのうちの一本がこれ。次回は『白いドレスの女』『シャレード』『薔薇の名前』『ユージュアル・サスペクツ』など、リクエストしたいです。
- ・初めて参加しました。すごくよかったです。次回も来たいです。ありがとうございました。
- ・トリハダものでした。とても素晴らしく楽しかったです。アリガトー。
- ・スリルがあってよかった。スバラシイ映画を期待しています。
- ・不思議で楽しい映画でした。
- ・面白かったです。さすがヒッチコック！！
- ・すごくおもしろかった。エンドが少しできすぎです。
- ・わくわくドキドキ楽しい映画でした。
- ・すてきな映画ありがとう。次も楽しみにしています。
- ・すごく面白かったです。
- ・素晴らしいですね。
- ・上映中の入場はやめてほしい。



## 第 65 回上映会のご案内

# 小犬をつれた貴婦人 字幕上映

Дама с собачкой



4月19日(木)

① 10:30 ~ ② 14:00 ~ ③ 18:30 ~

銀行員のグーロフは、避暑地で犬を連れた貴婦人アンナと  
出会い心を奪われる。やがて二人の間に愛情が芽生えたが、  
アンナは夫の元へと帰っていった。グーロフもモスクワへ戻  
るが、アンナが忘れられず、妻に偽ってアンナのいるサラト  
フへと旅立つ。

監督・脚本：イオシフ・ヘイフィッツ

原作：A・P・チェーホフ

音楽：ナジェージダ・シモニャン

出演：アレクセイ・バターロフ

イヤ・サヴィーナ

製作：1960年 ロシア モノクロ 90分

### 注意



上映中の携帯操作は、周りの方の迷惑になりますのでご遠慮下さい。また、観賞マナーを守り、終了後も明るくなるまで席を立たないようにお願いします。上映開始時間を過ぎての入場は、お断りします。

りぶらホールにはヒアリング  
グループが設置されています。補  
聴器を利用されている方は、T  
モードに切り替えてください。



### サロン・ド・シネマについて

ホールホワイエにて、寄付金でお茶菓子の提供  
をしています。映画の上映前にご利用ください。  
但し、「夜の部」には開催しません。

### 賛助サポーターとご寄付のご案内

賛助サポーターは、年度更新となります。総会のご案内と  
共に更新のご案内を同封いたしますので、よろしくお願  
いいたします。なお、ご寄付は随時受け付けておりますので、  
スタッフにお申し出ください。

### 今後の上映のご案内 (☆は再上映作品、★はレンタル作品。上映作品は変更になる場合があります。)

|        |          |              |           |           |           |
|--------|----------|--------------|-----------|-----------|-----------|
| 第 66 回 | 5月17日(木) | ☆『4分間のピアニスト』 | ① 10:30 ~ | ② 14:00 ~ | ③ 18:30 ~ |
| 第 67 回 | 6月21日(木) | 『踊らん哉』       | ① 10:30 ~ | ② 14:00 ~ | ③ 18:30 ~ |
| 第 68 回 | 8月23日(木) | ★『この世界の片隅に』  | ① 10:30 ~ | ② 14:00 ~ | ③ 18:15 ~ |
| 第 69 回 | 9月20日(木) | 『市民ケーン』      | ① 10:30 ~ | ② 14:00 ~ | ③ 18:30 ~ |